

戦争をしない未来をつくる、政治を変えよう ＝東京・憲法集会に5万人

5月3日、東京・有明防災公園で憲法集会が開かれ5万人が参加した。集会では、民進、共産、社民、生活の野党4党の党首や、戦争法反対や脱原発、沖縄の米軍基地の建設反対など、さまざまな立場の人たちがマイクを握った。また、安保法廃止の2000万人署名は現在1200万人を突破し、続々と署名が集まっていると報告されると、大きな拍手と歓声が起こった。なお、①署名は6月いっぱいまで継続、②6月5日に国会包囲大行動をおこなうと提起された。



集会参加者の思い

【横浜市・69歳女性】

私たちは平和を享受してきたが、次の世代の子や孫たちがどうなるか心配で、憲法集会は2回目の参加。世界中で争いが起きている。力や武力で対抗しても意味がない。政治が悪いほうに向かってるのは残念だ。

【東京都世田谷区・73歳男性】

父が戦死しているのだから、戦争は嫌ということが本能的にある。自分の人生としては戦争にかりだされることもなく過ごしてきたが、安倍さんになって戦争への道を進んでいるという危機感がある。次の世代に、今の平和な日本を手渡す、そのために自分も何かしなければならぬと思っている。

【埼玉在住の18歳女子大生とその母親】

18歳の女子大生＝1年くらい前から戦争法に反対する国会前とか埼玉県内の集会に参加してきた。いろいろところで運動している人や平和を大事にする人たちが集まる場などで今日は、親子で参加した。こうした集会に参加する若い人たちは、以前に比べれば増えてきていると思う。ティーンズソウルなど、この社会の変だと思ふことや嫌だと思ふことに声を上げる人が増えてきている。

母親(公務員47歳)＝いま反対の声を上げなくてどうするという思いで、今日は来た。戦争法をなくして、戦争する国にならないように、みんなで心を合わせたと家族で参加した。去年は家族揃って、国会前の戦争法反対の抗議行動にも行った。

【埼玉県川口市・39歳男性】

こうゆう大きな集会に始めて来た。戦争の足音がして不安だ。働きたいが仕事につけず、世間の目が何かと厳しくなっているような気がして、息苦しい。憲法を変えようとなると弱者などの切捨てが進む、声を上げないと危ないと思ひ参加した。

運動は前進を確認し、安倍政権を退陣へ

5・3憲法集会の開会挨拶で、「解釈で憲法9条を壊すな！実行委員会」の高田健さんは、戦争法反対の1年間のたたかいを振り返り、安倍政権退陣に向けて、さらに運動を積み上げようと、次のように集会参加者に呼びかけた。

昨年5月3日、横浜で開催された憲法集会は、その後の2015年安保闘争と呼ばれた憲法違反の戦争法に反対する、全国的な、巨大な市民運動の幕開けとなった。昨年の憲法集会は、さまざまな立場の違いを越えて、安倍政権の戦争政策に反対する、画期的な出発点になったといえよう。

安倍内閣は、民意をかえり見ることなく、昨年9月19日に戦争法を強行採決した。しかし、その後も、この暴挙に反対する行動は衰えることなく継続され、一部の識者が言うように「2015年、日本の政治文化は大きく変わった」などと形容されるような大きな展開を見せている。

この運動は、戦争法廃止の2000万人署名として全国津々浦々で展開され、また国会では安保法制廃止の野党共同の廃止法案提出に結実した。

先日は、多数の法曹関係者らによる戦争法違憲訴訟の運動がはじまった。さらには、来る参議院選挙に向けては、野党の勝利を目指す市民連合として展開されている。

今日、殆どの報道機関の世論調査の結果は、「戦争法と改憲に反対」が多数を占めているのは、私たちの運動の広がりを見せているといえよう。

こうした運動を背景にたたかわれた、とりわけ北海道5区の（自民・町村衆議院議長の死去に伴う）衆議院補欠選挙は、池田真紀さんを先頭にした共同のたたかいが、安倍政権と与党を心胆寒からしめたであろう（出口調査で無党派層7割が市民連合・野党共闘の池田さんに投票。投票率が高ければ逆転したと与党は分析）。

このたたかいは、戦争法反対を柱にすえ、野党と市民がしっかり連携してたたかえば自公政権を追い詰め、勝利できる可能性を指し示した。

私たちは来たる参議院選挙でもこれらの経験に学び、とりわけ1人区での野党候補者の一本化を実現し、最低限でも自公与党とその補完勢力との3分の2以上の議席確保を阻止し、安倍内閣の退陣を実現しよう。

そのためにも、ひきつづき戦争法廃止の2000万署名を推進し、6月5日の国会包囲大行動と、それに呼応した全国の市民行動の高揚を勝ち取ろう。

本日の憲法集会を契機に、戦争に反対する2016年安保闘争の巨大な主役を共に勝ち取ろう。

（記 16.5.4 田原）



今年初めてNHKの世論調査で、「改憲必要ない」が「改憲必要あり」を上回る。時がたっても、国民の戦争法反対の声は衰えず、平和憲法を守ろうの声が増えている。